令和６年度用小学校生活科教科書内容解説資料

編集の趣旨と特色

11 学図

本資料は、「教科書発行者行動規範」に則っており、
配布を許可されているものです。

特設サイト

みんなとまなぶ　しょうがっこう

せいかつ

上　下

学校図書

「みんなと学ぶ」にこめた思い

学校図書の教科書には、教科名の前に「みんなと学ぶ」という言葉がついています。
これには、教室という空間、授業という時間を共有し、
先生や友達との学びを大切にしたいという思いをこめています。
「個」があっての「みんなの学び」、「みんな」があっての「個の学び」。
個とみんなの両方の学びが深まることを大切にし、教科書編修の基本理念としてきました。

個の違いが協働を生み、
協働の学びが個を深める。

目 次

特色 1　活動の必要性が みえる / 子どもの変容が みえる　02
特色 2　活動と活動が つながる / 自己評価に つながる　06
特色 3　ふり返り、ひろがる / 活動が ひろがる　10

その他の特色
1 年生の始まりで大切にしたこと　14
他教科との関連　16
今日的な教育課題への対応　18
各単元の内容とねらい – 上巻　20
各単元の内容とねらい – 下巻　22
観点別特色一覧表　24
年間活動計画表　34
教科書掲載 QR コード一覧　36
教師用指導書のお知らせ　37

特色１ みえる　活動の必然性が みえる

自分の思いや願いを明確にする展開

それぞれの活動に対して自分の思いや願いを明確にすることで、活動への必然性をもたせ、自分の思いや願いに対して、子ども自身が決める自己決定の場を大切にしています。

上 p.26-27

上 p.28-29

上 p.30-31

自分の鉢の置き場を考え、決める

どんな場所ならよく育つか、自分がお世話をしやすい場所はどこかなどを考え、鉢の置き場を自分で決めていきます。

子どもの思いや願い

「大きな花をさかせたい。」「たくさん花をさかせたい。」など、子どもたちそれぞれの思いや願いをもたせる場面を設定しました。

種を選ぶ

どんな花になって欲しいかという思いや願いをもとに、どんな種を何個選ぶかを子ども一人ひとりが決めていきます。

話し合う場面の必然性

話し合いの場面においても、グループ内では解決できないような問題が生じた場合、他のグループや子どもたちと情報交換する場を設定しました。上巻 p.37 では、アサガオのつるが伸びてきてとなりの鉢のつるとからまってしまう場面を取り上げ、必然性を持って話し合いを行い、2 年生のトマトの栽培から、支柱を立てることに気付かせる展開としました。

自分の鉢で育てていく意味

幼児教育と生活科１年生における栽培活動の大きな違いとして、「自分の鉢で（責任をもって）育てる」活動を重視しました。種の数、鉢の置き場所など、友達との情報交換を行い、最終的には全て自分で決めていきます。これは学習上や精神的な自立を養うことをねらいとしています。「自己決定できる子どもを育てる」ことは、自立し生活を豊かにしていくことへとつながっていきます。

特色１ みえる　子どもの変容が みえる

上下巻を通して、子どもたちと一緒に成長していくキャラクター

上下巻の教科書を通して登場するキャラクターは同じにしています。
個性豊かな４人の子どもたちが、共に悩み、喜び、励まし合い、協力し合って成長していきます。
教科書の紙面の中で、子ども同士の関わりや、一人ひとりの思いや悩みを明確にし、
子どもたちが成長していく道筋が見えるようにしました。

先生キャラクター

上巻前半では先生の登場回数は多く、いつも子どもたちを見守ってくれるよう配置しました。

上巻後半に向かうにしたがい、先生の登場は少なくなり、子どもたち同士で助け合い・学び合っていきますが、場合に応じて活動する際の投げかけや先生から子どもへの支援のヒントになるような場面にも登場しています。

単元ごとにメインキャラクターを設定

単元ごとにメインキャラクターを設定し、はじめは期待や不安を持った子どもが、友達や周りと関わり合いながら変容し、成長していく姿を明確にしています。

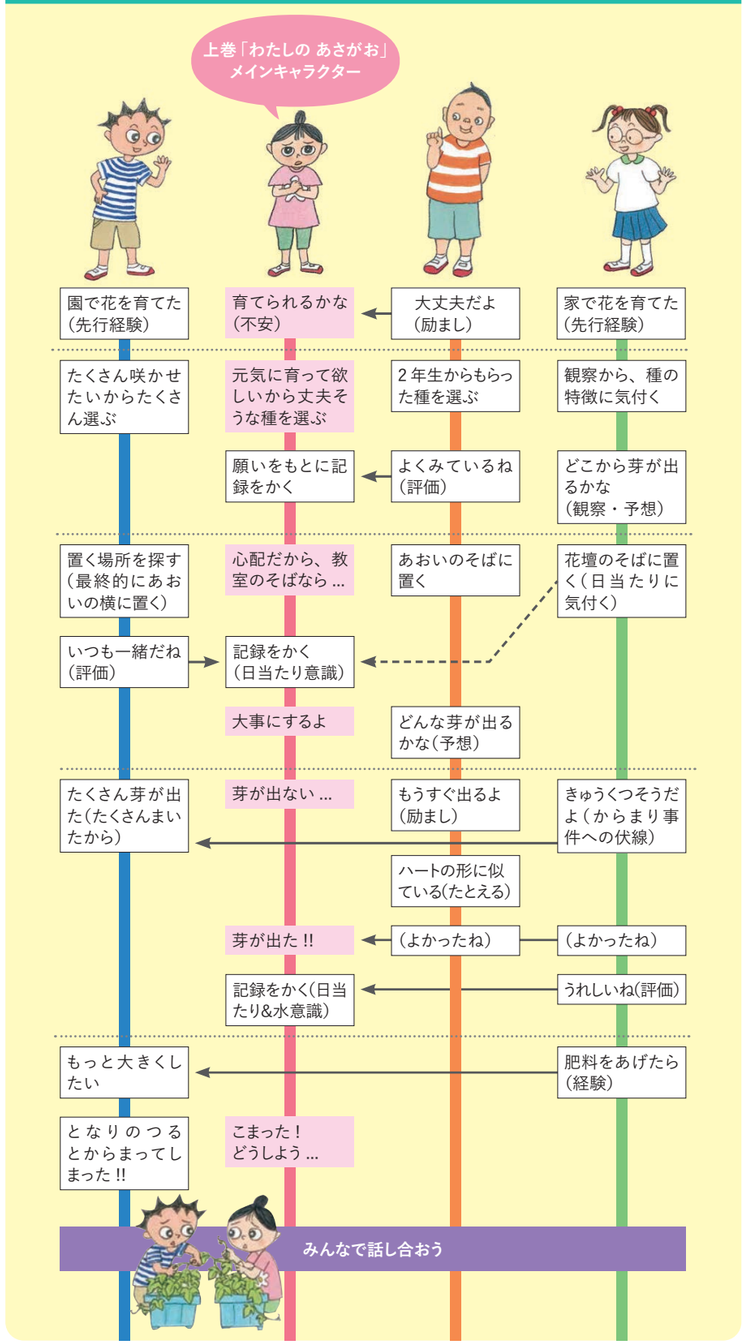
単元作成にあたっては、右のようなマップを作成し､4 人のキャラクターに、気付き・評価などの観点を組み込んだストーリーを設定しました。

また、各単元の子どもの記録カードも、メインキャラクターのものとなっています。

キャラクターのふきだし

各単元のメインキャラクターのふきだしを､他のものとは明確に分けることで、よりメインキャラクターのストーリーを読みやすくしました。

上巻「わたしの あさがお」のキャラクターマップ（前半部分）



特色 2　つながる　活動と活動が つながる

学びのつながりがわかる紙面構成

ページ見開きをひとつの活動単位とし、願いをもち→主体的・対話的に活動→伝え合い、ふり返る構成としました。見開き右下は、次の課題へと期待をもってつないでいけるよう表現しました。

1. 活動内容「なにをするのか。」
2. 子どもの思いや願い
3. 活動 1
4. 活動 2
5. カードによる気付きの表現
6. 友達（自分）からの評価
7. 次の学びへのつながり

子どもの言葉で

リード文は、活動がより子どもたち自身のものとなるよう、思いや願いを子どもの言葉で示しました。

試行・改善の繰り返し

「実際に試して、さらに良くなるように改善をする」。活動の中で繰り返し行う場面を表しました。

子ども同士の学び合い

子ども同士の伝え合いの場面です。子どもの学び合いを促しています。

下 p.84-85

学びを次の課題につなげる

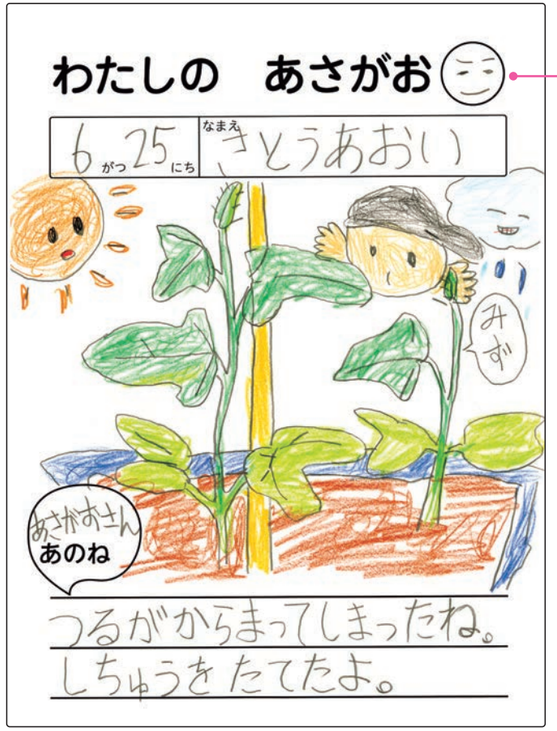
活動の一単位となる見開きページの右下には、活動をふまえた上で、その単元のメインキャラクターによる、「もっと」「したい」といった言葉を主とした、次の活動につながる対話場面を示しました。次の活動では、それをふまえた学習課題を提示することで、学習や子どもの意欲のつながりを保証しています。

下 p.90

特色 2　つながる　自己評価に つながる

記録によってつながる自己評価、友達との学び合い

子どもの言葉や身体表現だけではなく、活動を行う際に気付いたことや疑問に思ったこと、自分が思ったことなどをカードに記録することも大切にしています。活動に取り組んだ自分を記録によって表現し、自己評価につながるよう構成しました。



上 p.37

気持ちを表す顔マーク

文章や絵だけではなく、自分の気持ちを表す顔マークを描くことで、カードを見直した時にその時の自分の気持ちを思い出せるようにしました。

どんな きもちかな。

子どもの思いが詰まったカード

対象物をよく観察して表現することは大切ですが、それとともに子どもの気持ちが表出されたものであることが望まれます。教科書作成にあたっては、全国各地の子どもが実際にかいたカードをもとに、対象物と自分を一緒にかいているものや、自分の気持ちや願いが込められたものを示すことで、多様な表現があることを示しました。

みんなの きもちが ひとつに なって すごいね。

上 p.63

友達によるカードへの価値付け

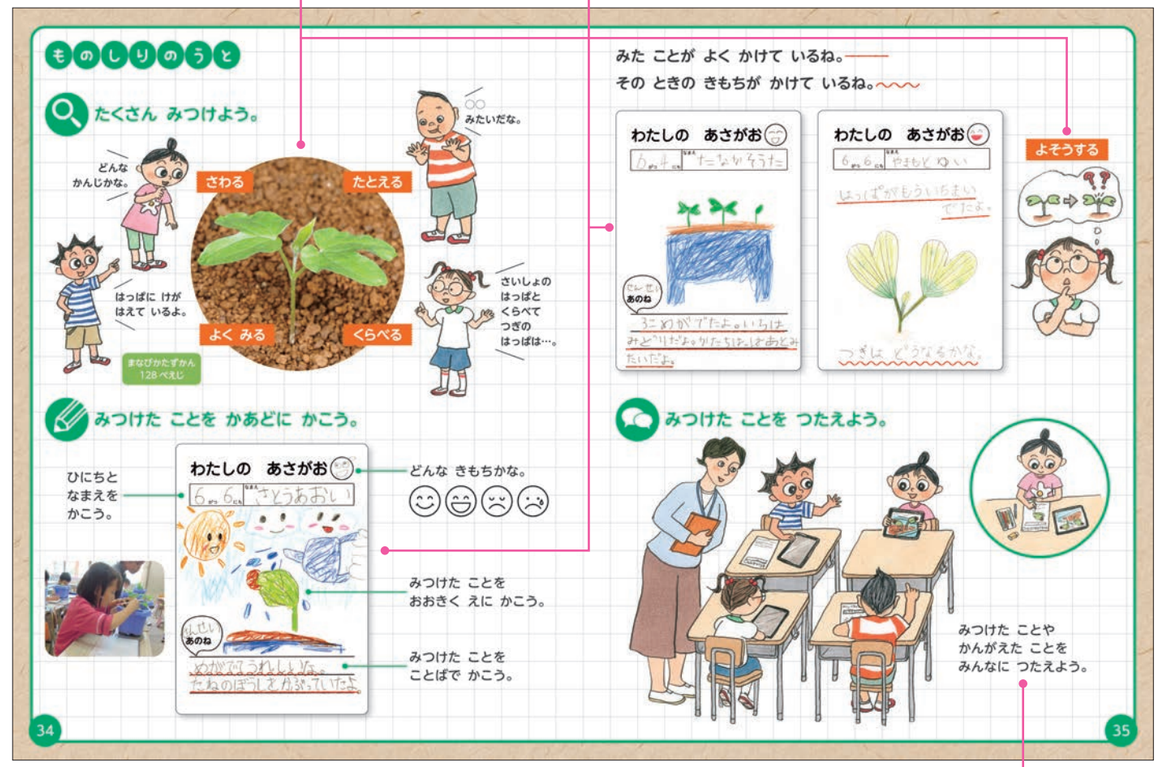
友達の評価によって、記録をかくポイントを示すとともに、学び合いの姿勢を表しました。

対象に働きかけるポイント

上巻 p.34-35 の「ものしりのうと」では、「見る」「さわる」「たとえる」「くらべる」「予想する」といった対象に働きかけるポイントを示しました。ポイントを示すだけではなく、キャラクターが具体的な言葉を発することで、子どもの思考を促すよう工夫しました。

記録のかき方

実際のカードを使って、記録する際のポイントを示しています。カードは、子どもの発達段階に対応できるように 1 種類だけではなく、多様な種類を示しました。



上 p.34-35

対象への働きかけ、記録のかき方がわかる

上下巻とも、単元内で記録のかき方のヒントを示しています（上 p.34-35、下 p.44-45）。また、巻末には「学び方図かん」を配置し、必要な場面で子どもたちが活動や学びのヒントとして使えるようにしています（上 p.125 ～ 136、下 p.113~128）。

伝える大切さ

カードだけではなく、自分の気付いたことを言葉やいろいろな方法でみんなと共有することも大切にしました。

特色 3 ひろがる　ふり返り、ひろがる

「またがんばろう」「もっとやりたい」と思う単元末

単元末では、今までの活動をふり返り、思い出に残ったことや自分の成長したことなどについて多様な表現でまとめています。これによって自分自身をふり返り、またやってみたい、今度はこうしてみたいという子どもの意欲を引き出し、単元が終わった後も活動がひろがるよう構成しました。

記録をもとにしたまとめでふり返る

これまで記録したカードをまとめて、ふり返られるまとめを示しました。ただ記録カードを並べるだけではなく、自分が頑張ったことを絵に表現しています。

下 p.56-57

多様な表現

単元を通して自分が頑張ったことや記憶に残ったことを表現する方法を、工作物や新聞などの多様な例で示しました。

「もっと」につなげる

単元末のまとめから、さらに「もっとやってみたい」という場を設けました。ここではこれまで野菜を育ててきた経験と自信をもとに、秋野菜の栽培にひろげていきます。

下 p.110-111

未来につなげる

下巻最終単元「わたしたんけん」では、「これからのわたし」について、作文を書く活動を設定しました。

もっと○○したい

上下巻とも、単元の最後には「もっと○○したい」を設けました。内容は単元によって様々ですが、これまでの活動を通じて得た自信（＝生きる力）をもとに、さらなる活動・課題にひろげたり、自分自身の生活につなげたりし、子ども自身の生活が豊かになるよう構成しました。

「もっと」で話し合う

下巻「生きものと友だち」では、育ててきた生き物について「これからどうするか」を話し合う場を設けました。ここでは、「責任を持って飼い続ける」ことについても示しています。

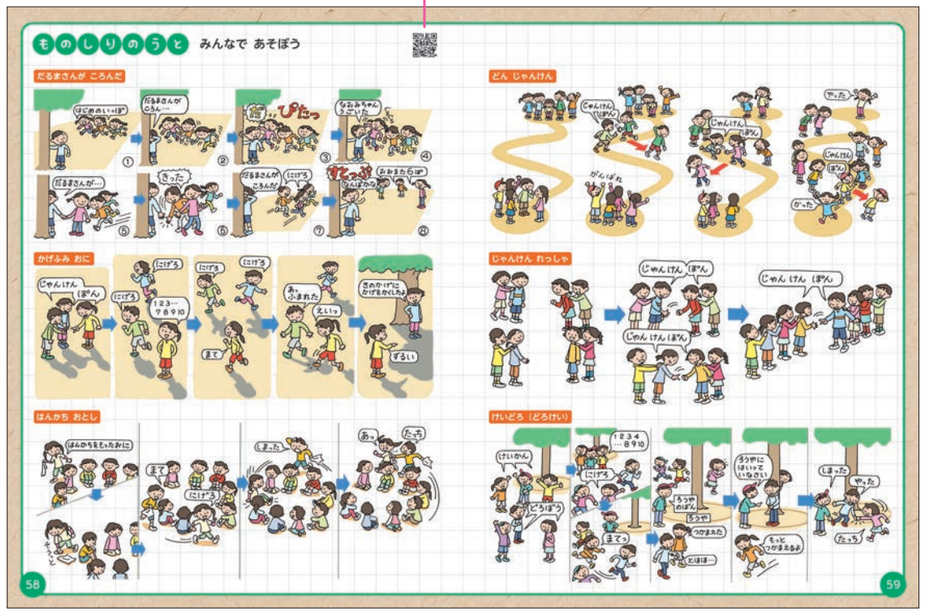
下 p.74

特色 3　ひろがる　活動が ひろがる

活動がひろがる多様な資料

「ものしりノート」や「ものしり図かん」は単元内の必要な場面で登場し、子どもたちの活動の補助となるようにしました。また、各地域の資料を掲載することで、自分たちの地域には「どんなこと・ものがあるかな」と子どもが興味を持てるよう構成しました。

● QR コード先では、遊び方について動画で示しています。



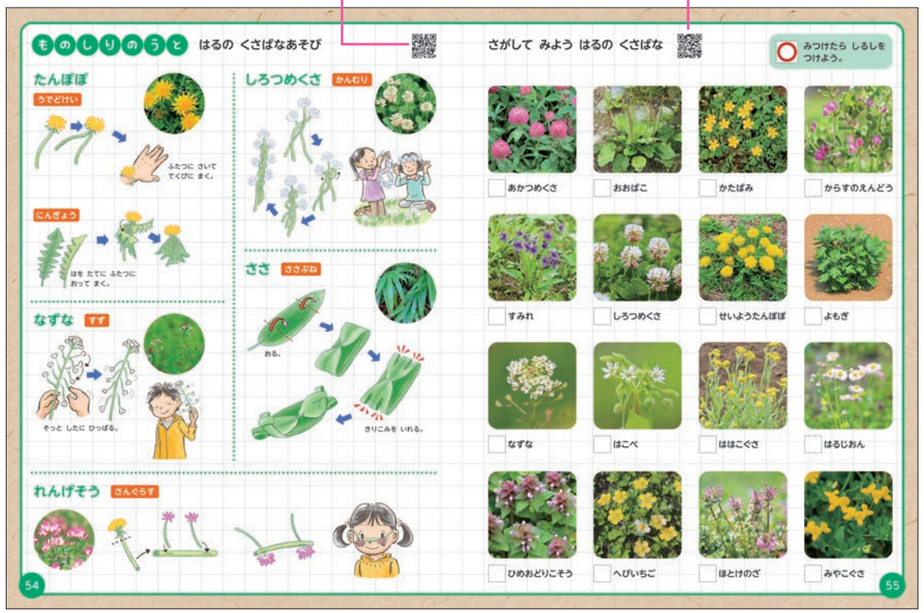
上 p.58-59

子どもたちの体験を保証する

子どもたちの遊び方の変化により、「外遊び」「自然遊び」といった、遊び体験の不足が指摘されています。教科書では「ものしりノート」で子どもたちの活動が広がり深まるような資料を、「ものしり図かん」で季節に合わせた資料や、各地域の資料などを掲載し子どもの興味関心を引き出します。また、それらの資料とあわせ、QR コードで様々な動画や資料を用意し、活動を保証しています。

● QR コード先では、作り方について動画で示しています。

● QR コード先では、春から初夏に見られる草花について示しています。



上 p.54-55

下p.60のQRコード先

上p.55のQRコード先

● QR コード先では、多様な地域に対応するよう設定されたものもあります。

その他の特色　1年生の始まりで大切にしたこと

スタートカリキュラム

入門期の活動に関しては、上巻頭に特設ページ「はじまるよ しょうがっこう」を設けました。クラスで友達となかよくなったり、心配なことは先生に相談したり、小学校が安心できる場所であることが分かるようなイラストや写真で構成しました。

上 p.4-5

じぶんでできるよ

先生の問いかけやキャラクターの「〇〇できるよ」という言葉から、入学する前の子どもたちがどんなことをしてきたか、幼稚園や保育園、こども園などの施設との違いや共通点などを感じたり話したりできるようにしました。

入学時の不安や心配

小学校に入学して「学校で迷子になってしまう」「自分の靴がわからない」「体調が悪くなってしまった」など様々な困ったことに直面するかもしれません。でも、そんな時はなんでも聞ける先生がいます。「困ったことは先生に相談しようね」と初めに伝えておくことで、子どもが安心して学校生活を送れるよう構成しました。

先生からの問いかけ

先生キャラクターからの問いかけを入れることで、子どもが今までの経験を話したり、どんなことができるかなど話せるようにしています。

安全な登下校への配慮

上巻 p.10-11 に示すことで、登下校の安全などを入学当初に確認できるよう配慮しました。また、巻末 p.136 には防災対策について示しています。

上 p.10-11

その他の特色　他教科との関連

下 p.69

理科との関連

栽培・飼育活動や、もの作りをする中で、それらに対する見方・考え方の基礎を育むように工夫しています。また、自然の中や、土や石、水で遊んだりする中で、子どもたちの原体験の不足を補うよう工夫しています。そしてそれらについて、感じたこと、見つけたことを言語化し、表現できるよう構成しました。

道徳との関連

生活科の色々な活動の中で、生命や自然、周りの人々への感謝や思いやり、励ましの言葉を示すことで、それらへの関わり方を意識し考えられるよう配慮しています。また友達のみならず動物や植物と関わる中で、相手を理解することでその距離が縮まる（なかよくなる）ことに気付けるよう構成しています。

体育との関連

上巻では、季節を感じる活動の中で、まず体を使ってたっぷりと遊ぶ活動を設定しました。下巻では、生き物の様子を身体を使って表現する様子を示しています。

算数との関連

活動の中で、「分ける」「表す」「まとめる」「どうしてそうなるか考える」など、算数の大事な考え方を育むよう配慮しました。

上 p.43

社会との関連

上巻では学校や公園、家庭といった生活や安全を支えている人々を扱っています。下巻では自分達の住んでいる地域を地図などを活用して探検し、そこには色々な職業があることや、そこで働く人々が工夫や努力をして私達の生活を支えていることに気付くとともに、地域への愛着を育むように工夫しています。

下 p.27

図画工作との関連

学習の中で進んで表したり見たりする態度を育て、生活科で体験したことや素材を使って表現した絵や工作物の例を取り上げました。また、身近な自然物や材料を使って、工夫しながら作成し表現する場を大切にしました。

上 p.89

国語との関連

上下巻を通して、対話したり記録したりすることを重視しました。これは授業中の評価とポートフォリオなどの授業後の評価にもつながるものです。本文中や巻末資料では、表現力としての「話す」・「聞く」・「書く」などの学ぶ力をつけるわざを示しています。「書く」については記録カードだけでなく、作文や絵手紙、新聞や礼状など、多様な活動例を示しました。

音楽との関連

活動の中で自然音や環境音について気付いたり、それらを工夫することによって、音量や音質が変わることに気付く場面を取り上げました。

その他の特色　今日的な教育課題への対応

ICT・情報

人に聞いたり本で調べたりするほか、郵便、電話、インターネットなど多様な情報収集の手段や場面を示しました。

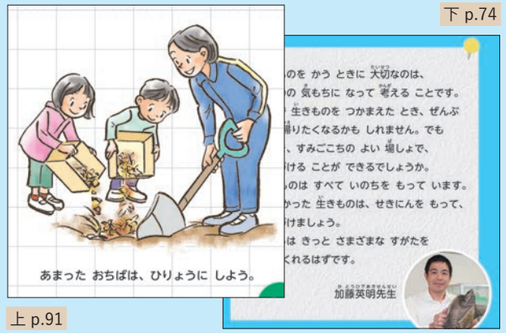
また、タブレット端末などの ICT 機器、インターネットの活用場面のほか、それらを使用する際の注意や約束を示すことで、情報モラルの意識付けも図っています。

下 p.8　下 p.125

SDGs・環境

「できることから始める」を基本に、資源の分類・再利用を活動の中で約束事として示し、普段の生活でも身に付くよう配慮しています。

また、生き物や自然と触れ合う活動を通して、生き物や自然への関心をもち、大切にする気持ちが生まれるよう配慮しています。



下 p.74　上 p.91

公共心

単元を通して、公共の施設の利用方法や公共のマナーをイラストや写真で示しました。公共でのマナーだけではなく、子どもたちが地域・社会の一員と感じ、より良く社会のために行動をしていけるよう配慮しています。

上 p.56

安全・健康

手洗いのしかたや登下校の注意点をイラストで示すほか、健康・衛生・安全面について注意を必要とする活動ページには「手洗い・うがい」「注意」のマークを示すことで、子どもが安全、健康で衛生的な生活を自ら意識して送れるよう配慮しています。

上 p.6

国際理解

教科書の随所に外国人キャラクターが登場するほか、多様な言語表記の案内板の写真など、身近なもの・ことから他国の文化などに目を向け、自分との関わりで考えられるよう配慮しています。

下 p.15

上下巻巻末の「先生・保護者のみなさまへ」の QR コードを読み込むと英・中国・ポルトガル・タガログ・韓国・スペイン語で、その内容が示されます。

人権・福祉

男女の登場回数や役割分担に偏りがないように配慮した上で、身近な幼児、高齢者、障がいのある人など、多様な人々との自然な関わりを写真・イラストで随所に示しました。

また、バリアフリーの視点から身近な福祉設備を取り上げ、身の回りの多様な人々への配慮にも気付けるよう配慮しています。

下 p.14

キャリア教育

「がっこうたんけん」「まちたんけん」など、身近で働く様々な業種の人々と関わる活動を通して、多くの職業が自分達とどう関わっているのかを考え、意識できるよう配慮しています。

また、探検活動を含む１年間をふり返る活動では、成長した自分から、将来の自分について考え、そこに向かってどう生活していくかを考えられるよう構成されています。

下 p.111

伝統文化

地域の行事やお祭りに参加することで、郷土愛を育み、高齢者の方々から昔の遊びを教えてもらうことで、伝統的な遊びの良さを体感します。

下巻「まちたんけん」では各地域の祭りや季節ごとの行事を、「わたしたちの野さいばたけ」では、地域の伝統野菜を掲載しています。

下 p.18

その他の特色　各単元の内容とねらい–上巻

がっこうたんけん

この単元は入門期の１つとして位置付けています。自分の教室がわからなくなったことがある「そうたさん」がメインキャラクターです。まず教室を起点として校内を探検し、校内の施設の役割、基本的な約束になるべく多く気付かせることを主軸としました。次に、そこで働く人に着目させ、学校で働く人達の仕事の内容を知り、それが自分達の学校生活を守ってくれていることに気付くことで、安心して学校生活を送れるようになるよう構成しています。

上 p.23

わたしの あさがお

この単元は、植物栽培に少し自信が無い「あおいさん」がメインキャラクターです。前半の場面では「自分の鉢で」「種を選んで」「鉢の置き場所を決めて」など、自己決定の場面を重視し構成しました。また、p.40-41 では夏休み期間の活動を保証し、栽培後には、これまでの記録からアサガオの成長をふり返る中で自己の成長をふり返り、半年間育ててきたアサガオに感謝する場面を設けました。またこの単元では、「たとえる」「くらべる」「よそうする」などの観察の視点や記録のしかた、タブレット端末を扱う場面も登場します。

上 p.40

あそびに いこうよ

野外での遊び活動は、大きく春～夏と、秋、冬の３つに分けました。各単元はそれぞれの活動に加えて、豊富な資料から構成されています。

春は入門期の意味合いが強く、友達をつくりながら工夫して遊ぶ中で、自然の中で遊ぶ楽しさ、公共施設の使い方を学べるよう構成しました。夏は、水や土、しゃぼん玉で遊ぶ中で、以降の生活科や理科に通じる原体験をつくることを主眼としました。

上 p.63

生きもの 大すき

この単元は、モルモットなどの「あたたかい生き物」との触れ合いと、学校の周りにいる虫の短期飼育で構成しました。ここでは、相手が何を食べるのか・どんな場所を好むのか・どんなことをすれば喜ぶのかなどを探りながら観察する様子や、小動物との現実的な距離と心の距離を徐々に縮めていく様子を示しています。その中で、命の大切さに気付かせるとともに、小動物だけでなく、友達を含めた他人は自分の思い通りにはならず、相手を理解することでその距離が縮まることを気付くこともねらっています。

モルモットなどの飼育に関しては、可能であれば行う扱いとし、「もっと やってみたいな」で示しました。

上 p.73

あきを たのしもう

秋の活動は大きく２場面の構成となっています。最初は校庭や公園に出かけ、体全体で秋を感じ自然と触れ合う活動を設定しました。工作用の落ち葉やどんぐりを集めるためではなく、たっぷりと秋を満喫し、自然の中で遊ぶ楽しさや季節の移り変わりに気付かせることがその目的です。

次に、落ち葉やどんぐりを使って「何か作れないかな。」というつぶやきをもとに、教室でもの作りをする活動を設定しました。もの作りでは、考え工夫する場面を設定し、それらを使って遊びを創造する場面、さらに「もっと あそびたいな」では、幼保の子どもたちを招いて遊ぶ場面も示しています。

上 p.89

ありがとうが いっぱい

この単元は、まず「家の人はどんな仕事をしているのか」ということを知り、「自分にはどんなことができるのか」という課題を持つことから始まります。学校外での活動が主となる単元ですが、p.91 にあるように学校での情報交換や学び合いを大切にしました。そして家の仕事に挑戦する中で、より成長した自分に自信をもち、また頑張ろうという気持ちとともに、「ありがとう」という感謝の気持ちを忘れないよう構成しました。さらに「もっと つづけたいな」では、規則的な生活習慣を続けることが大切であることも示しました。

上 p.101

ふゆを たのしもう

冬の遊びは、地域差を考慮し、雪の多い地域とそうでない地域との活動に分けました。地域の実情に応じて「風」と「雪や氷」を選択したり、その両方も選択できるようになっています。風の活動では友達と交流し、比較する・工夫するといった場面を大切にしました。この体験は、下巻の「動くおもちゃ」へとつながっていきます。

また、「もっと あそびたいな」では「むかしからのあそび」を取り上げ、高齢者との交流を、昔遊びの良さや楽しさを、触れ合いを通して気付くことができるよう構成しました。

上 p.109

もうすぐ２年生

「もうすぐ２年生」にはメインキャラクターはいません。みんなでふり返る構成としました。ここではまず１年間をふり返り、できるようになった自分達を認めることができるよう構成しました。そこでは p.121 にあるように、自分の心の成長も認めることができるよう配慮しています。

「まって いるよ しん１年生。」は、新１年生を迎える活動で構成しました。ここでは前時の活動をふまえて自分達の入学時を思い出し、新１年生に何をしてあげればよいか考え活動するよう構成しました。

上 p.122

その他の特色　各単元の内容とねらい–下巻

まちたんけん／あの 人に 会いたいな

まちを探検する活動を大きく２つに分けて設定しました。「まちたんけん」では、自分達が知っているまちについて発表し、学校を中心とした大まかな位置関係がわかるように地図を使った活動を導入として設定しました。そして下巻最初の単元として、「計画」→「実行」→「ふり返り」→…といった学び方が明確にわかるような展開としました。計画の段階では、安全に関することも確認できるよう配慮し、「実行」の場面では、商店や施設、民家や農家 、公園、身近な標識といった様々なものを、五感を通して、多くの発見があるように構成しました。

「あの人に会いたいな」では、まちで出会った人に注目させ、人との交流を企画します。「実行」の場面では、インタビューをしたり、感動して握手を求めたり、新たな疑問が生まれたりと自然に気付きの質が高まる様子を表現しました。地域を探検し、地域の人と交流することでより深く自分達の地域を知ることにつながり、自分達のまちを愛し大切にしようと考えられるよう構成しました。

下 p.27

わたしたちの 野さいばたけ

この単元は、上巻でのアサガオの栽培を経て、「前の経験が活かせる」「前とは違う」という学びの見通しのもと、野菜を育てる活動を取り上げました。野菜栽培にあたっては、はじめに育てる野菜を決める活動を設定し、苗屋さんに聞きに行ったりして決定します。そして、個々やグループでの栽培活動を進めていくうちに、様々な作業や問題に直面しながらそれを解決していく姿を示し、困難を乗り越えるたくましい心も育つように構成しました。また活動を保証する資料として、栽培方法に関わる「ものしりノート」を p.42、46-47、49、50、52 に、また地域野菜や野菜の花について p.43、53、59 の「ものしり図かん」で取り上げています。

ふり返り場面では、野菜を収穫した喜びや野菜に対する感謝を多様な表現でまとめる中で、その成功体験やまた一つ成長した自分をふり返り、p.58 からの「もっと そだてたいな」で、秋からも自信を持って野菜を育てていけるよう構成しました。

下 p.40

生きものと 友だち

この単元は、身近に見られる生き物を探し、捕まえ、飼育する構成としました。生き物を飼育するときは、どうすれば生き物が喜ぶか相手の立場で考えることを大切にしました。生き物がいた環境を思い出し、飼育場所を整えることは地域の自然を愛し、環境への見方・考え方につながります。また観察するときは、「くらべる」「たとえる」「数える」といった科学的な見方ができるよう配慮しました。

最後に記録をもとにまとめる場面では、生き物のまとめだけではなく、それを通して成長した自分についてもまとめさせ、自分の成長をみとれるよう工夫しました。そして「これからも飼い続けるかどうか」を議論する場面を取り上げ、「いのち」に対する責任についても言及しました。

下 p.69

作って あそぼう うごく おもちゃ

この単元は、工作に少し苦手意識のある「そうたさん」がメインキャラクターとなります。おもちゃ作りの活動を通して「まっすぐ走らせたい」などの願いや改善する観点を明確にしながら、次のステップに進める展開とし、「計画」→「実行」→「ふり返り」→「改善」→「実行」→「ふり返り」といった、気付きが高められる学習のサイクルを明確に示しました。そして、改善されたそれぞれのおもちゃを持ち寄り、他の子どもと遊び、遊び方の工夫も含めて「もっと面白くしたい」という願いのもと、改良し、工夫し、さらには１年生を招待して遊ぶ場面を設けました。これらの活動を通して、動くおもちゃ作りが、理科や図画工作的な体験にとどまらず、試行錯誤を繰り返しながら集団の中で自分の学びを作り、今後の人生の中で大切なものとなりうるよう配慮しました。

下 p.85

わたしたんけん

この単元は、子ども自身の成長がわかるとともに、一緒に学び成長した友達や自分の成長を支えてくれた人達がいることがわかるよう構成しました。

まず、２年生での自分をふり返り評価する場面を設けました。次の自分の「すてき」を友達に発見してもらう活動では、気付かなかった自分の良い所を知り、新たな学年に向かって目標を立てられるよう構成しました。さらに１年生の頃や入学前の自分について調べていく中で、大人達に支えられていた自分に気付くよう構成しました。この活動については、子どもたちの多様な家庭状況に配慮した扱いとしました。そして最後にこれらをまとめたものが「わたしたんけん」になります。

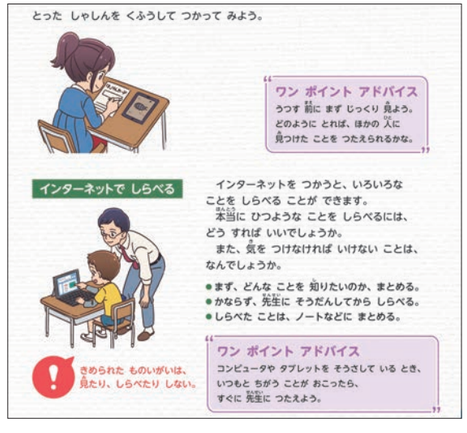
単元末の「もっと かがやきたい」では、これからの自分について作文を書く活動を設定しました。

下 p.111

学び方図かん（上下巻）

上下巻とも、巻末に「学び方図かん」を設け、子どもたちが必要に応じて活動の参考にできるよう配慮しました。はじめの「こんなときどうしよう」で実際の単元を例に挙げ、以下の学び方のヒントにつなげています。まず「見る」では、五感を使った調べ方に加え「比べる」「例える」ことも示しています。また「話す」だけでなく、「聞く」ことも協働的な学びの大切な要素であると考え、同列に示しています。また「考える」では、予想したり工夫したりすることについて示し、「書く」では、カードや作文の書き方を、さらに下巻では新聞にまとめたり、手紙の書き方についても示しています。

ICT 機器、特にタブレット端末については、上巻では静止画や動画で記録する道具として取り上げていますが、撮る前にじっくり見ること、どのように撮れば他人に見つけたことを伝えることができるか考えるよう示しました。下巻では、インターネットを使って調べる場合の注意点についても示しています。



下 p.125

観点別特色一覧表

学習指導要領との関連

●教科目標

観　点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
①具体的な活動や体験を通した学習になっているか。	● 活動や体験の内容ごとにテーマをもった単元構成となっているため、単元の流れが把握しやすく、具体的な活動を通して「何を、どのように学習する」が非常にわかりやすくなっている。 ● 各単元冒頭では、子どもの思いや願いを喚起する台詞やテキストを示すことで、具体的な活動や体験を通して、子ども自らが解決していくことを促す構成になっている。
②身近な生活に関わる見方・考え方を生かしているか。	● 4 人のキャラクターのつぶやきやカードの中で子どもが自然に見方や考え方を生かしていけるように設定されている。 ● 各単元冒頭ではキャラクターたちの対話場面を配置することで、子ども自身の経験を思い出し、活用できるよう配慮されている。
③学習を通して、自ら自立し生活を豊かにするよう配慮されているか。	● 単元末に「もっと」ページを配置し、単元が終わった後も学んだことを生かして、意欲的に活動を持続・発展できるようにしている。
④活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けられるようになっているか。	● 単元全体を通して、子どもの身近な人々、社会、自然と直接関わる場面が数多く設定されている。また、各単元が長期的に継続した活動として設定されているので、人々や社会、自然といった対象と繰り返し関わり、「気付き」を深めていけるように配慮されているとともに自分自身との関わりで考えられるよう工夫されている。 ● 習慣や技能は、各単元において「やくそく」「ものしりノート」などのコーナーとして示すことで、それらを学習するという形ではなく、活動や体験の中で、子どもの思いや願いを実現する過程において身に付けられるよう工夫されている。 ● 手洗いに関しては、左ページの右上にマークを配置し、手洗いの習慣を意識させるよう工夫されている。
⑤身近な人々、社会および自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるように工夫されているか。	● 各単元において自己決定の場面を大事にしており、主体的に活動していく中で、自分や自身の生活について考えられるよう構成されている。 ● 身近な人々、社会および自然との関わりをカードなどに記録していくことを重視しており、単元末ではそれらを多様な表現でまとめ、ふり返れるよう構成されている。
⑥身近な人々、社会および自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養うように配慮されているか。	● 全単元を通して、キャラクターや写真によって子どもたちが意欲的に活動している様子が取り上げられている。また、ふり返る場面が充実しているので、子どもたちが自身の成長や良さに気付けるよう配慮されている。 ● 「もっと」のページには、活動を通して自信をもった子どもたちが、さらに意欲をもって取り組める活動などを示している。

●学年目標

観　点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
①学校、家庭および地域の生活に関わることを通して、自分と身近な人々、社会および自然との関わりについて考えることができ、それらのよさやすばらしさ、自分との関わりに気付き、地域に愛着をもち自然を大切にしたり、集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするように配慮されているか。	● 単元を通して、対象と関わることや対象の気持ちになって考えること、自分や周りの人についての気付きや自分との関わりで考える事を大切にするよう配慮されている。 ● 他者との関係については、子どもの発達段階を考慮した扱いとなっている。上巻前半では身近なグループとの関わりを基本にクラス全体との関わりへと広げており、上巻後半では年下の子どもや、地域の高齢者、身近な大人との関わりに気付くよう構成されている。▶上 37、93、100、114-115 ● 下巻『まちたんけん』では身近なまちの良さに気付かせ、『あの人に会いたいな』では出会った人々へと視点を広げることで学びが深まるよう構成されている。▶下 2-21、22-37 ほか ● 下巻最終単元『わたしたんけん』では、これらを統合した形で、「できるようになった今の自分」を中心に、友達、家族や社会の人々という構造を一枚の紙にまとめ、それをもとに自分の将来を思い描けるよう構成されている。
②身近な人々、社会および自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動の良さや大切さに気付き、自分達の遊びや生活をよりよくするようにする配慮がされているか。	● 全単元を通して、色々な人やものと直接関わる活動や体験を多く取り入れている。さらにそれらを工夫したり改善したりする様子を示すことで、活動の良さや大切さに気付き、自分達の遊びや生活をより良くしていけるよう配慮されている。特に下巻『作ってあそぼううごくおもちゃ』では、工夫して作った自分のおもちゃを、友達の意見も取り入れて何度も改良し、さらに遊び方も工夫し発表していけるよう構成されている。▶下 80-95 ● 自然を愛する心情を育むよう、まず自然とたっぷり関わる構成となっている。例えば上巻『あきをたのしもう』では、もの作りの材料採取のために野外に出るのではなく、まず季節を体で感じ、思い切り遊ぶよう構成されている。
③自分自身を見つめることを通して、自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考えることができ、自分の良さや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活するようにする配慮がされているか。	● 単元を通してふり返りの場面を大事にしており、単元の終わりには活動とともに自分の成長をふり返るよう構成されている。 ● 上下巻ともに成長単元を設定しており、上巻『ありがとうがいっぱい』では、家の仕事を知り、自分で挑戦することで、家の仕事やその大変さがわかり、自分の生活について考えるようにしている。さらに仕事に挑戦することで、家の人に感謝の気持ちをもつと同時に、自分でできることをこれからも続けようとする意欲がもてるようになっている。▶上 100-101 ● 下巻『わたしたんけん』では、2 年生の自分をふり返るとともに、前の自分はどうだったかを思い出すことで、より一層自分の成長や周りの人との関わりが感じられるよう構成されている。 ● 他者との関わりでは、常に「ありがとう」という感謝の気持ちを大切にするよう配慮されている。 ▶「ありがとう」という言葉が登場する場面 友達への感謝▶上 3、109、121、下 103、108 植物などへの感謝▶上 44、45、下 56、57 家庭の人への感謝▶上 94、98、99、100、下 100、109 社会の人への感謝▶下 24、30、31

内容の組織・配列

観　点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
①単元構成はわかりやすく、読み取りやすいものになっているか。	● 各単元は、それぞれテーマをもち連続した活動になっているので、活動展開がわかりやすく、見通しがもちやすい構成になっている。 ● 単元内の活動は、基本 1 活動 1 見開き単位で構成されており、見開き右下では次の活動へ繋げていく場面を示しているので、次の課題設定に無理がない。 ● 登場する 4 人のキャラクターやその友達、先生を 1 人のイラストレーターが通して描いており、絵本のようにストーリーが読み取りやすい構成となっている。 ● ストーリー性をもたせ、単元ごとに主となるキャラクターを設定することで、友達や周りと関わり合いながら変容し、成長していく様子がわかりやすい構成になっている。
②地域や学校、子どもの実態に応じた指導ができるように配慮してあるか。	● ほぼ全ての単元が、時系列的に活動時期を限定せず、地域や学校の環境、子どもの意識などに応じて、自由に学習時期を組み替えたり、軽重を付けて指導したりすることができる非常に柔軟な構成となっている。 ● 素材や教材が複数提示されているので、地域や学校の実態、子どもの興味に応じて選択したり、適宜自由に扱えるよう配慮されている。

内容の程度・分量

観　点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
①活動や体験の程度は、子どもの発達段階からみて適切か。また、子どもの発達の段階や特性を踏まえ、2学年間を見通して学習活動が設定されているか。	● 活動や体験の場が、上巻では学校や学校の周辺、下巻では地域へと広がっており、子どもの発達段階に配慮されている。 ● 活動内容や教材については、発達段階を踏まえ、広がりと深まりのあるものに変化するよう工夫されている。「探検単元」では、上巻は「学校」、下巻は「まち」と設定することで、活動の場が広がるよう配慮されている。 ●「飼育単元」では、上巻はあたたかい動物に触れたり身近な生き物に親しんだりすることを中心とし、下巻は自分で見つけた生き物と継続的に関わることで、より深く調べたり、より大切にしたりする構成となっている。 ●「遊び単元」では、上巻は「季節に応じた自然を利用した遊び」、下巻は「動くおもちゃ作り」と設定することで、内容的な深まりが無理のない形で示されている。 ● 記録の記述についても、上巻の 4 ～ 5 月では簡単な言葉による記述形式で示し、6 月以降はより文章を書きこめる形式を段階的に示すことで、子どもの発達段階を考慮したものとなっている。また、上巻 p.34-35 のように、ノートの書き方を示すことで、多様な発達段階の子どもにも配慮している。
②全体および各単元の分量、配当時間は適切か。	● 学習内容は一般的な公立小学校で扱える内容に絞って精選して示されているので、対象に関わる時間が確保された構成となっている。また、各学年・各単元の時間配当は、標準時数を基準に構成してあり、ゆとりをもった活動が展開できるよう配慮されている。

内容の選択と扱い

観　点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
①子どもの主体的な活動を引き出すための工夫がされているか。	● 子どもの自発的な言葉をもとにしたリード文や、活動の楽しさと熱気を伝える写真やイラスト、親しみやすい 4 人のキャラクターと適切なふきだしなど、子どもの「自分でもやってみたい」という主体的な活動意欲が引き出されるよう工夫されている。 ● 子どもの主体的な活動を支援する『学び方図かん』を上下巻の巻末に設けることで、子どもが常に参考にし、自ら活動を広げていけるよう配慮されている。▶上 125-136、下 113-128 ● 子どもの主体的な活動を支援する『ものしりノート』や『ものしり図かん』などの資料ページが充実しており、子どもが自分で活動を広げていけるよう配慮されている。 ● 活動に対して子どもの思いや願いを主にして進めることで、子ども自身が活動への必然性をもち、自分の願いに対して子ども自身が決める、自己決定していく場を設けている。
②子どもの活動意欲を喚起する配慮や工夫がされているか。	● 各単元冒頭には、魅力的な写真やイラストを使った扉ページを設け、子どもの期待感や、これから行う活動について意欲を喚起できるよう配慮されている。また、上巻では幼保での体験や子どもたちの日常経験、下巻では 1 年生での体験や子どもたちの日常経験を扉ページのイラストやキャラクターのセリフなどで示すことにより、対話を促し、子どもの活動意欲を喚起する構成となっている。 ● 本文ページも、臨場感溢れる写真と本格的で見入ってしまうような美しいイラスト、親しみやすい言葉で構成され、活動意欲が継続するよう配慮されている。
③スタートカリキュラムへの配慮がされているか。	● 上巻の冒頭には、『はじまるよ しょうがっこう』と『がっこうたんけん』を設け、入学したばかりの子どもが学校生活にスムーズかつ安心して適応できるよう構成されている。 ● 上巻『はじまるよ しょうがっこう』は、子どもの発達段階を考慮し、情報量を限定したイラストと写真、短い言葉のみで構成されている。また上巻 p.10-11 では、子どもの登下校時の安全についてイラスト主体でわかりやすく示されている。 ●『がっこうたんけん』では、校内や校内で働く人達を知る中で、自分達の教室の位置を把握し、学校のどこからでも戻って来られるようになり、困った時はいつでも相談できる人がいることに気付くような構成となっている。
④活動展開は、見通しやすい構成になっているか。	● 各単元冒頭では、子どもの思いや願いを軸に、無理のない活動展開が設定されている。 ● 各単元内の各活動が見開きページで完結するため、単元全体だけでなく一つひとつの活動も見通しやすい構成となっている。 ● 各見開き左上には、活動のめあてと、子どもの思いや願いをもとにした言葉があり、主体的に学習に取り組めるよう設定されている。 ● 各見開き右下には、子どもの思いや願い、期待感をもとにした言葉を配置し、次の活動への期待や意欲、見通しをもてるよう工夫されている。
⑤体験したことや学習したことをふり返り、自身の学びや変容を自覚できるような構成となっているか。	● 活動ごとに単元がまとまっているので、学習したことをふり返りやすい構成となっている。 ● 活動の記録については、あとでふり返れるように、活動時の自分の気持ちを含めてカードに表現・記録する方法を示している。また、自分の記録を友達が評価し、価値付ける構成になっているので、自分の変容に気付きやすくなるよう配慮されている。 ● 上巻『わたしのあさがお』では、花を咲かせることができた自分をふり返るページで、これまでの活動の様子などを友達が評価する場面を示している。▶上 39 ● 上巻と下巻の最終単元では、学年の終わりにこれまでの成長をふり返る活動が設定されている。 ● 下巻最終単元『わたしたんけん』では、自分の変容を自分自身だけでなく、友達、家庭や身近な人々からも教えてもらう活動を組み込むことで、より深く自覚ができるよう工夫されている。

観　点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
⑥活動展開は、対話によって考えなどを広げたり、深めたりできるような構成となっているか。	● 全体を通して、対話の場面を大事に扱っている。また子どもが対話しながら変容していく姿がわかりやすい構成となっている。 ● 子ども同士の対話のヒントになるように、個と個の対話からグループでの対話などへ発展していく場面など、子どもの発達段階に応じた対話の場面を設定し、自分の考えを広げたり深めたりするような構成となっている。 ● 上下巻末の『学び方図かん』では、「はなす」「はっぴょうする」などを扱っている。また発信だけでなく、どのように聞くかも示しており、子どもの対話活動について配慮されている。
⑦子どもの気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得られるように多様な表現や、学習活動を重視しているか。	● 活動を通して得られた子どもの気付きや思いを、カード、作文、手紙、劇などの様々な方法で表現できるよう配慮されている。特に『わたしのあさがお』では、カードの書き方や観察のしかたをわかりやすい言葉で例示し、表現力の基礎や、科学的な見方や考え方の基礎を育めるよう配慮されている。また下巻『わたしたちの野さいばたけ』では、より詳しいカードの書き方を示している。▶上 34-35、下 44-45 ● 子どもたちが表現したものをもとに、身近な人々と伝え合う活動がされるよう配慮されている。
⑧見つける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動が行えるように工夫されているか。	● 子どもの学びを豊かにするために、多様な学習活動を掲載している。学習活動がより子どもに根付くように、上下巻末の『学び方図かん』には学習活動の際のポイントがわかりやすく示されている。 ● 下巻の動くおもちゃ作りにおいては、繰り返し試行錯誤を行う場面を設定している。いくつもの学習活動を行いながら、子どもが自分の願いや思いに沿ったおもちゃを作成、工夫していけるよう構成されている。▶下 80-95 ● 上巻 p.34 では、学習活動の例示として具体例を子どもの（わかりやすい）言葉で示している。
⑨自分自身への気付きを促す配慮がされているか。	● 具体的な活動の各場面で用いるカードには自己評価欄が設けられており、自分自身をふり返ることができるよう配慮されている。 ● 各単元の終わりでは、記録などをもとにふり返る場面が設けられており、自分自身の成長に気付けるよう配慮されている。
⑩季節の変化への気付きが大切に扱われているか。	● 上巻では、四季の遊びを3つの単元に分けて掲載し、その季節に出会える素材を使った遊びを中心に構成されている。また、p.116-117 では季節ごとの定点写真を掲載し、自然の様子や四季の変化に気付けるよう配慮されている。 ● 上巻『あきをたのしもう』では、野外活動の展開として、まず秋の自然にどっぷりとひたって季節を味わう→落ちている木の実などの素材を使ってもっと遊びたい→秋の素材を使ったおもちゃ作り、という流れにすることで、秋ならではの活動を通して、他の季節との違いや変化に気付けるような構成となっている。 ● 下巻では、季節ごとの街の様子のイラストや各地の行事の写真を掲載しており、様々な視点から季節の変化に気付けるよう配慮されている。
⑪子どもの学びの深まりを作り出すために、考える場面や教師からの手立ての場面が組み立てられるように工夫されているか。	● 子どもたちが自ら気付き、その質を高め深めていけるように、活動写真やキャラクター同士の会話が無理のない形で配置されている。 ● 子どもたちに自ら気付かせていく場面と、『ものしりノート』のように教師が教える場面とを分けるように工夫している。 ● 状況に応じて、活動を行う際の教室内の配置や、教師の支援の場面、板書例なども取り上げられている。

観　点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
⑫校外での学習を積極的に取り入れるようになっているか。	● 上巻では、子どもの身近な遊び場である公園に行き、自然だけではなく公共物を使った遊びを取り扱っている。▶上 52-59、84-85 ● 下巻『まちたんけん』『あの人に会いたいな』では校外に出て、地域のお店や人々と関わる活動を取り入れている。 ● 下巻『わたしたちの野さいばたけ』では、地域で育てられる野菜を知るために、下巻『生きものと友だち』では生き物を探しにいくために校外に出かける活動を取り入れている。
⑬伝え合い交流する活動は大切にされているか。	● 上下巻を通して、4人の子どもたちの様々な交流場面が示されており、子どもの活動のヒントとなるよう構成されている。 ● 各単元の活動では、身近な人々との関わりが盛り込まれており、活発な言語活動が行えるよう配慮されている。また、それらを通して、子どものコミュニケーション能力が育つようにも配慮されている。 学校の人▶上 20-25　公園やまちの人▶上 1、56、114-115、下 22-31、40-41、48 幼児▶上 93、122　異学年▶上 1、24、下 51、93-95 高齢者▶上 114-115、下 2、18-21、30-31、36-37 ● 上巻 p.24-25 では、学習が終了した後も伝え合いの交流場面が続くよう構成されている。 ● 上巻 p.121 では、「こんな気もちも気づいたよ。」として、自分の気持ちを伝えたり表現したりする例を示している。 ● 巻末の『学び方図かん』では、伝え合う手段として、「はなす」「きく」「はっぴょうする」を示し、伝え合い交流する活動について配慮されている。
⑭素材や教材が、子どもの身近なもので指導しやすい内容になっているか。	● 手に入れやすい身近な素材や教具が取り上げられているので、子どもの興味を引き出すとともに、指導しやすい内容になっている。
⑮地域の特色を生かした内容になっているか。	● 上巻 p.108-111 の雪の降る地域と降らない地域への対応のように、教材や活動を複数提示することで、地域の実態に合った活動に対応できるよう配慮されている。 ● 下巻の『まちたんけん』では、自分達のまちの様子やそこに働く人達を知り、それをまとめ発表していく中で、自分達のまちを愛する気持ちを育めるよう配慮されている。地域の祭りや行事への参加、地域の施設などの具体例を示すことで、自分の地域へ目を向け、それを生かした活動に結び付くよう配慮されている。 ●『わたしたちの野さいばたけ』では、自分達の地域で育てられる野菜に目を向けるように配慮しているとともに地域野菜の紹介をし、自分達の地域にもあるかどうかなど興味を持つよう工夫している。
⑯飼育活動や栽培活動は２年間に渡って断続的な飼育、栽培を行い、動物や植物への関わり方が深まるように配慮されているか。	● 飼育活動に関しては、上巻では子どもの発達段階を考慮し、主にあたたかい動物と触れ合う活動を行い、下巻では自分の身近な生き物を捕まえて継続して飼う活動とすることで、色々な不思議を見つけ出せるよう配慮されている。 ● 栽培活動では、単元を通して子どもが対象と関わることで自分との関わりや愛着をもてるよう構成されている。上巻では同じ植物を一人ひとりが育てる活動、下巻では各自が自分の地域や育てる季節に合った植物を育てる活動を通して、植物についてよりくわしく知り、気付きや学びを深めていけるような構成となっている。

今日的な教育課題

観　点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
①図書館教育への配慮がされているか。	● 上巻『がっこうたんけん』では校内の学校図書館を見学したり、利用のしかたを聞いてみたりする活動が設定されている。また下巻『まちたんけん』では、図書館へのインタビュー活動を通して、図書館の利用のしかたがわかるよう構成されている。 ▶上 25、下 33、34-35 ● 図書を使って読んだり調べたりする場面が取り上げられている。 ▶上 5、102、下 20、41、51、64、96
②安全・防災教育への配慮はされているか。	● 登下校や、学習活動における安全への配慮が十分されている。「いかのおすし」や「おかしも」など、覚えやすい合言葉を示すことで、犯罪や災害から自分の身を守るための視点についてもふれている。 ● 上巻では、スタートカリキュラムにあたる「はじまるよ しょうがっこう」に登下校の際の注意点を掲載することで、子どもが最初に確認し、安全な登下校ができるよう配慮されている。 ▶上 10-11、下 126-127 ● 防災については、上下巻とも地震や津波などの天災から身を守る方法をイラストとテキストでわかりやすく示している。 ▶上 136、下 128 ● 学校生活だけでなく、夏休みや冬休みでも安全・防災を意識できるよう配慮されている。 ▶上 66-67、102、下 78-79、96 ● イラストや写真、マークでも安全や防災について示されている。 ▶上 15、52、85、111、下 9、14-15、62-63、84
③生命尊重や環境教育への配慮はされているか。	● 栽培・飼育単元では、生き物と直接触れ合ったり、一定期間育てたりする活動を通して、生命を尊重する心や、環境を大切にする心が育つよう配慮されている。 ● 活動全体を通して、自然や生き物に対する敬意をもてるよう配慮されている。 ▶上 42-43、44-45、73、81、下 57、74 ほか ● 身近な廃品を利用したり、活動後の後片付けを示唆することによって、日常生活における環境への気付きや配慮、リサイクルの重要性を理解し、積極的に取り組む姿勢を育めるよう配慮されている。 廃品の利用▶下 80-95　ごみの分別▶上 89、下 89、124 活動後の後片付け▶上 89、91、120、123、下 57、89、95、124
④日本の伝統文化を大切にしているか。	● 子どもたちが生活している地域社会での、様々な伝統的な行事を紹介しており、積極的に参加できるよう配慮されている。▶上 65、103、下 2-3、18-21、33、36-37、79 ● 伝統的な遊びを高齢者の方々に教えてもらう活動を取り入れることで、伝統的な遊びの良さを体感できるよう配慮されている。▶上 114-115
⑤国際理解教育への配慮はされているか。	● イラストに海外で行われている行事を入れたり、さし絵・写真の中に外国人を登場させるなど、国際理解の視点への配慮が十分なされている。 ▶上 14、21、23、78、100、下 2-3、9、13、18-21、31、36-37、51、90、94-95 ほか ● まちの中にある多様な言語表記の案内板などを示す事で、国際理解の視点を自分との関わりで考え、深められるよう配慮されている。▶下 14-15
⑥道徳科との関連を考慮しているか。	● 上下巻ともに他者や自然を愛し、対話などを通じて他者を思いやる心を育むとともに、問題解決を通じて、自立し生活を豊かにできるような構成となっている。
⑦ キャリア教育の配慮がされているか。	● 上巻『ありがとうがいっぱい』では、家の中での仕事についての活動を取り扱い、下巻『まちたんけん』では働いている人と関わることで身近な職業を知るように構成されている。 ● 下巻の『わたしたんけん』では、今の自分と身近な人達について理解し、自分の将来について考えていけるよう配慮されている。▶下 110-111 ほか

観　点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
⑧ ICT の活用への配慮はされているか。	● 情報の収集場面や発信場面においては、人に聞いたり本で調べたりする以外に、郵便、電話、インターネットなどの様々な手段を例示しており、情報教育の素地となるよう配慮されている。 ● 下巻『学び方図かん』では、インターネットの使い方を掲載し、利用する場合は大人と一緒に調べるなどの配慮がされている。▶下 125 ● デジタルカメラやタブレット、電子黒板などの ICT 機器を授業で使用している様子を取り扱っている。▶上 9、33、35、37、44、135、下 8、12、13、35、51、64、72、125 ● ICT 機器などで写真や動画を撮る際の注意や約束を記載している。▶下 8、25
⑨ QR コードで示されている内容は適切か。	● 「○○の作り方」「○○の使い方」などの動画や図鑑・資料で構成されており、子どもの主体性を阻害することのない適切な内容で構成されている。 教科書掲載 QR コード一覧（本書 p.36）
⑩ 人権・福祉教育・男女平等への配慮はされているか。	● 活動を通して、障がいのある人、高齢者、身近な幼児など、多様な人々との関わりを大切に扱っている。▶上 23、56、79、93、114-115、下 3、9、14-15、17、30-31 ほか ● バリアフリーの視点から、身近な福祉関係の設備やそこで働く人々の存在に気付けるよう配慮されている。▶下 14-15、119 ● 掲載されている人物の写真・イラストについては、男女の比率に偏りがないよう配慮されている。また、学校や家庭、地域のどの場面においても、男女の平等に配慮されている。
⑪ SDGs への関連は図れているか。	● 「『誰一人取り残さない』持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現のため、生活科の学習の中でも「持続可能な開発目標（SDGs）」を意識できるよう配慮がなされている。 自然資源の活用▶上 91 分別（リサイクル）▶上 89、下 89、124

総合的な学習の時間・幼保小連携・合科的な指導

観　点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
①合科的な指導、他教科と関連がとれるように工夫されているか。	● 全ての単元において、「話す」「聞く」「書く」といった国語的要素を重視した活動になっている。また巻末の『学び方図かん』では、これらのポイントをまとめてわかりやすく示している。 ● 主に表現活動を中心に他教科との関連が図られている。他教科で学んだことを、カードの記録や遊びを良くしようとする際に実際に生かして使ってみるなど、学習効果の高まりが相互に作用する構成となっている。 算数▶上 43、45、89、120、下 52、54、69 音楽▶上 14、20、60、89、90 図工▶ノート全体、上 41、45、47、64、67、75、88-91、下 28-29、56、80-95 体育▶上 15、17、24、56-57、97、110-111、下 69、101
②幼保小連携や異学年交流に配慮されているか。	● 特に上巻では、幼保小連携を重視した構成となっている。上巻「はじまるよ　しょうがっこう」では、幼保から小学校にあがる子どもたちの不安を解消するよう、友達となかよくなったり、心配なことは先生に相談したり、小学校が安心できる場所であることが分かるようにイラストや写真で構成している。また、子どもたちの通学の安全を保証すべく、通学時の安全についても本単元で扱っている。▶上 1-11 ● 単元冒頭で、経験を出し合う場面で幼保にいた時の経験が出てくる場面（▶上 13、27）や、成長した自分をふり返る際、幼保の先生に聞いたり（▶下 105-106）、それを作文にまとめたりする場面（▶下 111）を取り上げている。 ● 異学年交流については、上巻では、上級生のお兄さんが出てくる場面（▶上 24）や、幼保との交流場面　（▶上 93、122）を取り上げている。下巻では、わからないことを上級生に聞く場面（▶下 51）や、自分達が工夫した遊びに下級生を招待する場面（▶下 93、94-95）を取り上げている。

観　点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
③総合的な学習の時間との関連が図られているか。	● 各単元は、それぞれ学習テーマをもった課題解決型の活動で構成されている。 ● 飼育・栽培単元や遊び単元では、探求していく姿や、協働して解決していく姿が見えることで、総合的な学習の時間の素地が養えるような構成となっている。 ● 上巻『あそびにいこうよ』、下巻『まちたんけん』では、地域の自然や人に積極的に関わっていく中から、地域を愛し、これからもより深く関わっていこうとする姿を醸成することで、総合的な学習の時間の素地が養えるような構成となっている。
④中学年以降の社会科へのつながりに配慮されているか。	● 上巻では校内図、下巻では校区の地図を使い、身のまわりの地域を空間的に考えられるよう配慮されている。▶上 23、下 6-7、8、29、30-31 ● 下巻『わたしたちの野さいばたけ』では、野菜の栽培においても地域の人とのつながりに配慮した構成となっている。▶下 22-33、40-49、51
⑤中学年以降の理科へのつながりに配慮されているか。	● 生命領域へのつながりは、飼育・栽培単元の活動の中で継続して記録をとり、それらの形態的特徴や成長変化に気付き、理科への素地を養えるよう構成されている。 ● 地球領域へのつながりは、雨水や水たまり、水や石、どろ、かげ遊びといった遊びの中で、理科への素地を養えるよう構成されている。 ▶上 60-64、110-111、113 ほか ● エネルギー領域へのつながりは、上巻では、草や木の実、風で動くおもちゃを工夫して遊んだりする活動、下巻では、風やゴムで動くおもちゃについて試行していく活動の中で、理科への素地を養えるよう構成されている。 ● 粒子領域へのつながりは、しおれた花で色水を作ったり、しゃぼん玉で遊んだりする中で、理科への素地を養えるよう構成されている。▶上 41、64

健康・安全・マナー

観　点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
①健康や衛生面での配慮がされているか。	● 上巻『はじまるよ しょうがっこう』、下巻『学び方図かん』に手洗いのやり方が掲載されており、子どもが健康で衛生的な学校生活や日常生活を送れるよう配慮されている。 ▶上 6-7、下 127 ● 校外活動や、自然・生き物と触れ合う活動では、「手洗い・うがいマーク」や「注意マーク」を随所に示し、健康や衛生面について注意を促している。
②生活上必要なマナーについて配慮されているか。	● 様々な活動の中で、社会的なマナーやルールが自然と身に付くよう配慮されている。 ▶上 1、10、15、17、20、52、56、84、下 9、24、25、35、65、75、78、126 ほか ● ICT 機器を使用する際の注意やインターネットの使い方についても取り上げられている。 ▶上 135、下 8、25、125 ● 教科書全体を通して「ありがとう」という感謝の気持ちを伝えることをとても大切にしている。 ▶上 3、44-45、100、109、121、下 30-31、57、72、103、108
③子どもの生活における安全について配慮されているか。	● 屋外活動の際に気を付けることや対処法などを「やくそく」として示すことで、子どもが安全に活動できるよう配慮されている。 熱中症対策▶上 62、上 66、下 78　安全対策▶上 52、111、下 9 危険な生物や植物▶上 85、下 63 ● 夏休み、冬休みの過ごし方を示すことで、長期休みでも安全に生活できるよう配慮されている。 ▶上 66-67、102、下 78-79、96-97

表現・表記

観　点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
①イラスト、写真などは効果的に表現されているか。	● 臨場感あふれる写真で、子どもの活動意欲が引き出されるよう配慮されている。また、魅力的なイラストで、活動内容や活動の流れがわかりやすく表現されている。
②紙面構成は工夫されているか。	● 専門家指導のもとユニバーサルデザインに配慮されている。本文は見開き単位で構成され、本文の見出しやカードの位置を揃えることで、子どもにわかりやすく表現されている。 ● 見開き右下に、次の活動を示唆するイラストを配置することで、子どもの活動への意欲をかき立てる構成となっている。
③ 表記・表現は適切か。	● 表記・表現は子どもの発達段階や国語の学習との関連が十分考慮されるとともに、子どもの負担にならないよう配慮されている。 ● 配当漢字とカタカナは、1年の二学期以降（夏休み明け）に相当する単元から使用されており、漢字には全て振り仮名が付けられている。

印刷・色覚特性・製本

観　点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
① 印刷は鮮明か。	● 白色度の高い用紙に、非常に鮮明で見やすく印刷されている。
②色覚の特性やユニバーサルデザインを配慮しているか。	● 多様な色覚をもつ子どもに配慮し、公的機関の専門家指導のもとカラーユニバーサルの考え方に則った、見やすくわかりやすい色使いが工夫されている。また本文では、ユニバーサルデザインフォントを使用し、視認性と読みやすさの向上が図られている。 ● 教科書に直接書き込むページでは、利き腕を問わず快適に書けるよう配慮されている。▶上 65
③ 用紙や製本は適切か。	● 判型は、子どもの興味・関心を喚起するために大判化（A4 変形判）を実現する一方で、軽量化にも配慮し、軽くて強度の高い用紙が使用されている。 ● 製本は低学年の子どもの使用を考慮し、堅牢さは堅持しながら、開きやすく、のどの部分が見やすくなっている。表紙には厚い用紙が使われ、汚れや濡れに強いコーティングが施されている。

年間活動計画表

※年間活動計画表は一例です。
各学校の環境に合わせて変更していただけます。

上巻　配当時数 102 時間

4	はじまるよ しょうがっこう ❹ がっこうたんけん ●がっこうたんけんに いこう ❺ ●もっと くわしく しろう ❺	わたしの あさがお ●たねを うえよう ❹		●通学や学校生活に慣れ親しむ。 ●友達となかよく遊ぶ。 ●1回目の学校探検に出かける。
5			あそびに いこうよ ●みつけた はるで あそぼう ❹	●2回目の学校探検に出かける。 ●アサガオの種まきの準備をする。 ●アサガオの種まきをする。 ●春の公園に行って、春の遊びを楽しむ。
6		●せわを しよう ❸	●あめと あそぼう ❷	●学校のことをもっと詳しく知ったり、お気に入りの場所を見つけたりする。 ●アサガオを観察したり、世話を始める。 ●雨の日を楽しむ。
7		●せわを しよう ❺	●みずや つちで あそぼう ❹	●毎日アサガオの世話をする。 ●アサガオの花が咲いた喜びをみんなで共有する。 ●夏の遊びを楽しむ。
8				
9	生きもの 大すき ●なかよく なろう ❻ 虫 大すき ●虫と なかよく なろう ❻	●たねを とろう ❸		●あたたかい生き物と触れ合う。 ●虫探しをする。 ●アサガオの種をとる。
10		●おもい出して みよう ❻	あきを たのしもう ●あきを たのしもう ❹ ●見つけた あきで あそぼう ❺	●アサガオの栽培活動をふり返る。 ●秋の公園に行って、秋の遊びを楽しむ。
11	ありがとうが いっぱい ●いえの しごとに ちょうせんしよう ❽		●みんなで あそぼう ❸	●木の葉や木の実を使って、おもちゃを作る。 ●家の仕事について調べる。
12				●みんなで作ったおもちゃで遊ぶ。 ●家の仕事に挑戦する。
1	●みんなに つたえよう ❸		ふゆを たのしもう ●かぜと あそぼう ❹ ●ゆきや こおりで あそぼう ❹ ●もっと あそびたいな ②	●家の仕事に挑戦した活動をふり返る。 ●風を使って遊ぶ。 ●雪や氷を使って遊ぶ。
2	もうすぐ 2 年生 ●1 年生を ふりかえろう ❻		●おもい出して みよう ❶	●季節によって遊んだことをふり返る。 ●1年生になってできるようになったことを話し合う。
3	●もうすぐ 2 年生 ❺			●新しく入学してくる1年生を迎える準備をする。

※1「生きもの 大すき」と「虫 大すき」は、学校の実情に応じて両方、また、どちらかを選択する。
※2「かぜと あそぼう」と、「ゆきや こおりで あそぼう」は、地域の実情に応じて両方、また、どちらかを選択する。

下巻　配当時数 105 時間

4	まちたんけん ●まちたんけんに 行こう ❻			●住んでいるまちについて知っていることなど、クラスで話し合う。 ●計画を立てて、まち探検に出かける。
5	●見つけた ことを つたえよう ❸	わたしたちの 野さいばたけ ●そだてたい 野さいを きめよう ❷ ●野さいづくりの じゅんびを しよう ❸ ●なえを うえよう ❸ ●野さいを そだてよう ❻ ●野さいを しゅうかくしよう ❹	生きものと 友だち ●生きものを さがそう ❷	●育てる野菜を決め、野菜作りの準備や畑作りをする。 ●苗植えをする。 ●生き物を探し、飼う計画を立てる。 ●まち探検でわかったことをみんなに伝える。
6			●生きものを かおう ❷	●野菜の観察したり、世話をする。 ●生き物を飼育する。 ●生き物の世話や観察をする。
7			●生きものの ふしぎを 見つけよう ❸ ●ふりかえろう ❷	●野菜の観察や、収穫をする。 ●生き物を飼育したことをふり返り、今後どうしていくかみんなで相談する。
8				
9		●ふりかえろう ❹ ●もっと そだて たいな ⑤		●畑の片付けをし、栽培活動をふり返る。 ●冬野菜の栽培準備をし、野菜を育てる。 ●まち探検に出かける。
10	あの 人に 会いたいな ●まちの 人の 話を 聞こう ❿ ●しらべた ことを つたえよう ❽			●まち探検でわかったことをみんなに伝える。 ●まちのためにできることを考え、行動する。
11			作って あそぼう うごく おもちゃ ●うごかし方を 見つけよう ❷ ●うごく おもちゃを 作ろう ❻	●どんな動きがあるかみんなで試して、どんなおもちゃを作ろうか考える。 ●工夫しながら動くおもちゃを作り、遊びながら改良していく。
12			●作った おもちゃで あそぼう ❼	●作ったおもちゃでみんなで楽しく遊び、楽しくなる遊び方を考える。
1	わたしたんけん ●2 年生を ふりかえろう ❷		●おもちゃ大会を しよう ❼	●みんなでおもちゃ大会を開く、準備をする。 ●おもちゃ大会を開く。 ●できるようになったことや頑張ったことをふり返る。
2	●みんなの いい ところを 見つけよう ❸ ●これまでの わたしを しらべよう ❹			●小学校に入学したときや1年生のときのことなどを、人に聞いたりして、自分の変化を調べる。
3	●わかった ことを まとめよう ❹ ●はっぴょうしよう ❹ ●もっと かがやきたい ③			●わかったことをまとめて、みんなに発表する。 ●3年生になったらしたいことなどを話し合う。

教科書掲載QRコード一覧

子どもたちの活動の手助けとなる資料を充実させました。
教科書に掲載されているQRコードを情報端末デバイスで読み込むとアクセスできます。

上　巻

頁	種別	内　容	数
6	動画	● 手の洗い方（外部リンク）	2
10	動画	● 交通安全（外部リンク）	2
11	資料	●「いかのおすし」リーフレット（外部リンク）	1
18	資料	● カードの書き方	1
29	資料	● いろいろな花　種 / 芽 / 葉と茎 / 花 / 実	1
30	動画	● 種の植え方	1
32	動画	● アサガオの芽生え	1
33	資料	● いろいろな花　種 / 芽 / 葉と茎 / 花 / 実	1
36	動画	● 肥料のまき方	1
37	資料	● いろいろな花　種 / 芽 / 葉と茎 / 花 / 実	1
37	動画	● アサガオのつるのまき方	1
39	資料	● いろいろな花　種 / 芽 / 葉と茎 / 花 / 実	1
40	動画	● アサガオの花（開花の様子）	1
43	資料	● いろいろな花　種 / 芽 / 葉と茎 / 花 / 実	1
46	資料	● 秋から育てて春に咲く花	1
47	動画	● リースの作り方 / 種の袋の作り方 / 袋の型（PDF）	3
52	動画	● テントウムシ	1
53	動画	● タンポポの綿毛	1
54	動画	● 春の草花遊び（作り方）	4
55	資料	● 春の草花 24 種 / 沖縄の春の草花 30 種	2
58	動画	● みんなで遊ぼう（遊び方）	6
60	資料	● 雨の日や雨上がりの様子	1
64	動画	● しゃぼん玉（遊び方）	1
68	動画	● いろいろなセミ	6
73	動画	● モルモットと仲良くなる秘密	2
76	動画	● モルモットのお世話　えさやり / 掃除	2
78	動画	● 虫の声	13
80	動画	● オンブバッタ	1
86	資料	● いろいろなどんぐり / 木の葉の様子	2
90	動画	● 秋のおもちゃの作り方	5
104	動画	● 冬に見られる鳥	8
112	動画	● 冬のおもちゃの作り方	4
114	動画	● 昔からの遊び	3
117	資料	● 沖縄の四季	1
137	資料	● 先生・保護者のみなさまへ（多言語表記）	1

コンテンツ数　84

下　巻

頁	種別	内　容	数
2	資料	● 町の四季	1
18	資料	● 町の四季	1
20	資料	● 町の四季	1
36	資料	● 町の四季	1
40	資料	● いろいろな野菜	1
43	資料	● 地域の野菜（夏）	1
46	動画	● 支柱の立て方	1
48	資料	● いろいろな野菜の種 / 苗 / 花 / 実	1
49	動画	● 苗の植え方	1
50	動画	● 野菜のお世話	4
53	資料	● いろいろな野菜の種 / 苗 / 花 / 実	1
59	資料	● 地域の野菜（秋・冬）	1
60	資料	● いろいろな生き物 / 沖縄の生き物	2
68	動画	● ダンゴムシ	1
70	動画	● 生き物の様子（外部リンク）	4
74	資料	● 知ってるかな？ 外来生物（外部リンク）	1
75	資料	● 生き物の紹介	3
84	動画	● レーシングカーの作り方	1
86	動画	● おもちゃの作り方	7
88	動画	● おもちゃの作り方	6
124	動画	● 道具の使い方	4
126	動画	● 交通安全（外部リンク）	2
127	動画	● 手の洗い方（外部リンク）	2
129	資料	● 先生・保護者のみなさまへ（多言語表記）	1

コンテンツ数　49

〈QR コードについて〉

QR コードは、スマートフォンやタブレット端末などで読み取りアプリを立ち上げて、カメラでを読みこむと、インターネット上のコンテンツにつながります。
スマートフォンやタブレット端末がない場合は、インターネットに接続した PC のインターネットブラウザから、下記のアドレスに接続しても利用できます。

上巻　https://r6.gakuto-plus.jp/ka01
下巻　https://r6.gakuto-plus.jp/kb01

QR コードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

教師用指導書のお知らせ

新教科書に合わせまして、授業で先生をサポートする指導書とデジタル教科書を企画中です。
子どもたちの学びを豊かにする授業をサポートします。
※企画中商品につき、実際の仕様・内容は変更になる場合がございます。

上下巻各 3 冊、指導者用デジタル教科書付き

朱書編

先生方が授業の際に使用できるよう具体的でわかりやすい紙面を企画しております。
教科書の縮刷ページを中心に、単元の導入では大単元のねらいや支援のポイント、時間配分などを示し、各ページではそのねらいや育って欲しい子どもの姿、活動の流れとポイントや、さらに準備するもの、活動を誘う発問例などを示す予定です。また、子どもがつまずきやすい場面を想定し、その対処法も取り上げる予定です。

解説編

子どもたちの資質・能力を育て、授業のねらいを達成させていくために、子どもの思いや願いに沿って活動や体験を通して学んでいく生活科では、事前の準備や計画が大切です。
「解説編」では、各大単元の授業の事前準備や指導案を取り上げ、先生の授業作りに役立てられるものを企画・作成中です。

活動の手引き

生活科では、子どもがやってみたい、続けたいと思いや願いをもてる体験・活動がかかせません。
活動のヒントになる資料や、授業で使えるカード、活動例などを楽しいイラストで紹介できるよう企画・作成中です。

指導者用デジタル教科書

指導書をご購入いただくと、無償でご利用いただけます。
（学校フリーライセンス）

教師用指導書に添付いたします。形態はクラウド版にてご提供予定です。通信環境等により端末インストールをご希望の場合やサーバー版をご希望の場合は、データ提供もしくは DVD メディアをご送付いたします。（Windows パソコンのみインストールが可能です。）拡大やペン機能などの基本機能のほか、動画等のコンテンツを多く収録し、また Googleドライブや MicrosoftのOneDrive へのアップロードが速やかに行える連携機能を搭載しています。

学習者用デジタル教科書

個人ライセンスにて 1 年間使用版として販売いたします。形態はクラウド版にてご提供予定です。拡大やペン機能などの基本機能のほか、動画等のコンテンツを多く収録し、また Googleドライブや Microsoft の OneDrive へのアップロードが速やかに行える連携機能を搭載しています。

デジタル教科書
特設サイト

学校図書株式会社のホームページでは、教科書に掲載されている記録カードや、
その他の活動でも使用できるカードがダウンロードできます。
（https：//www.gakuto.co.jp）

上 生活 121

下 生活 122

著作者

[監修]

片上宗二	広島大学名誉教授
山口令司	元國學院大學栃木短期大学教授

[執筆・校閲]

池田仁人	相模女子大学教授
岩﨑保之	関西大学教授
上田寛子	道灌山幼稚園園長
加藤英明	静岡大学准教授
木村光男	常葉大学准教授
酒井隆光	清明学園初等学校教諭
佐々木昭弘	筑波大学附属小学校校長
白岩　等	昭和学院小学校教頭
鈴木二正	慶應義塾幼稚舎教諭
鷲見辰美	筑波大学附属小学校教諭
竹下昌之	元相模女子大学教授
田中博史	「授業・人」塾代表・元筑波大学附属小学校副校長
露木和男	元早稲田大学教授
富田瑞枝	筑波大学附属小学校教諭
土橋　淳	常葉大学教育学部附属橘小学校教諭
沼田晶弘	東京学芸大学附属世田谷小学校教諭
正岡義憲	元愛媛大学教育学部附属小学校副校長
森田和良	文京学院大学特任教授

学校図書株式会社編修部

[ユニバーサルデザインに関する校閲]

田中良広	帝京平成大学教授

学校図書株式会社

本社　〒101-0063　東京都千代田区神田淡路町２丁目23番地１

業務推進部　TEL 03 - 6285 - 2947（直通）　FAX 03 - 6285 - 2949
編修部（生活）　TEL 03 - 6285 - 2957（直通）　FAX 03 - 6285 - 2949
https://www.gakuto.co.jp

ホームページ